

見沼たんぼ首都高ビオトープ

植物図鑑

見沼たんぼ首都高ビオトープ 緑のボランティア



見沼たんぼ首都高ビオトープ植物図鑑

見沼たんぼ首都高ビオトープは、「自然共生型の新しい都市高速道路」を目指し、貴重な緑地空間である見沼たんぼ地域の生態系を再生するため、高速道路の高架下に延長 1.7km、面積 6.3ha のビオトープを 2007 年に整備しました。整備後 10 年以上が経過し、これまでに 400 種類を超える植物が確認されています。

また、埼玉県の見沼地域に昔からある地域在来の植物を守り、育てるための活動を地域住民の皆さんとともにしています。

見沼たんぼ首都高ビオトープ植物図鑑は、地域住民の皆さんと守り育てている植物の一部や、活動について紹介するために作成しました。原稿は見沼たんぼ首都高ビオトープ 緑のボランティアの皆さんが執筆しています。

実施内容	春			夏			秋			冬		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ボランティア活動の 取り組み内容	草刈り 移植作業			草刈り			草刈り 種まき 移植作業			代掻き 間伐		
	設備（柵・解説版等）の設置・補修											
ハンゲショウ												
ノハナショウブ												
ツルボ												
チガヤ												
アキカラマツ												
タコノアシ												
ノウルシ												
ナツトウダイ												
アカメガシワ												
メドハギ												
ウワミズザクラ												
ワレモコウ												
シラカシ												
ハンノキ												
ヤブツバキ												
ネズミモチ												
カワチシャ												
ミゾコウジュ												
ノハラアザミ												
カントウヨメナ												

ビオトープの特徴と維持・管理

見沼たんぼ首都高ビオトープには、見沼地域の特徴にあわせて、①池沼タイプ、②樹林タイプ、③草地タイプの3つのタイプのビオトープが整備されています。それぞれのタイプのビオトープでは、動植物の生育地を保全するための維持・管理活動を行っています。

①池沼タイプ

もともとが湿地だった見沼たんぼ地域の特性を生かして、地下水と雨水で水域を確保しています。一般的に田んぼやため池などの水辺に生える植物をはじめ、埼玉県や見沼たんぼ地域でも少なくなり、絶滅危惧植物に指定されている植物が生育しています。

水辺の植物の生育環境を保つために、草刈りや代掻き、外来種の駆除などを定期的に行っています。また、種まきや移植により地域在来種を増やしています。



整備直後の様子



整備15年後の様子



在来植物の移植作業

②樹林タイプ

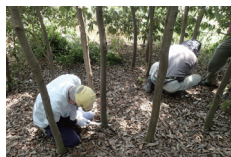
見沼たんぼの周辺の斜面林に生育している樹木の種子を集めて、2万本以上の苗木を植栽し、樹林を整備しています。見沼地域で少なくなっている在来の樹木の移植や、成長して密になった樹林の間伐を一部で行っています。



整備直後の様子



整備15年後の様子



樹木の間伐作業

③草地タイプ

隣接する芝川との連続性を確保するため、定期的な管理により草地を維持しています。

オギやヨシ、ススキ、チガヤなどを主とした見沼地域で見られる在来植物を中心とした草地を目指しています。草刈りや、外来種の駆除といった生育地の管理や、種まきや移植により地域の在来種を増やす作業を行っています。



整備直後の様子



整備15年後の様子



草刈り / 外来種駆除作業

白いお化粧をする

ハンゲショウ 半夏生

ドクダミ科
埼玉県 絶滅危惧Ⅱ類

高さ：60cm～1m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



🟢注目ポイント！

白い目立つ葉のそばで、垂れ下がっている部分をよく見るとたくさんの小さな花が見えます。

半夏生のころ（夏至から11日目）に白い花が咲くためハンゲショウという名前が付きました。また花の時期に葉が半分白くなるところから半化粧と呼ばれる説もあります。葉の色は花が終わる8月過ぎには元の緑色に戻ります。湿地や水辺に生育し、6～8月ごろに白い小さな花を多数つけます。葉は長さ5～15cm程度です。葉をもむと、独特のにおいがあります。

ボランティアの方のコメント

見沼地域でも少なくなっているハンゲショウを守るため、周辺のヨシの刈り取りなど、明るい環境をつくるための作業をしています。

ハナショウブの原種です

ノハナショウブ

野花菖蒲

アヤメ科
埼玉県 絶滅危惧Ⅱ類

高さ：40cm～1m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

園芸品種のハナショウブの原種です。真ん中の黄色い色は、昆虫に蜜の場所を教えるためのガイドの役割をしています。

日本のほぼ全域に分布し、水辺や湿った草原に自生しています。

赤紫色の花びらに黄色のスジが入るのが特徴です。よく似た花のアヤメには網目模様、カキツバタは白～淡黄色のスジが入ることで見分けることができます。

名前の似ているショウブは科が異なり、サトイモ科です。有毒で動物が食べないため、繁茂している地域もあります。

ボランティアの方のコメント

見沼地域にもともと生育していた株を、ピオトープに保護・移植しました。明るい場所が好きなので、移植した場所の周囲の刈り取りを定期的に行っています。

種まきから保護してよみがえった

ツルボ

蔓穂

キジカクシ科

高さ：20～40cm 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

公卿が宮中に参内するときに従者が差しかけた傘をたたんだ形に似ているため、別名をサンダイガサと言います。

名前の由来は、皮をむいたなめらかな鱗茎から「つるん坊」と呼んだものが転訛したとされています。

葉は線形で長さ8～9cmで根生しています。秋春の2回葉が出ますが、春に出た葉は夏に枯れます。秋の始め頃から高さ30cm程の花径を出し、淡紅紫色の総状花序をつけます。

鱗茎は2～3cmの卵球形で外皮は黒褐色で、たくさんのデンプンを含んでいます。食べられる山野草であり、救荒植物として飢饉の際などに食料として利用されてきました。

ボランティアの方のコメント

畑の畔などでよく見られていましたが、最近少なくなっているため地域の在来種として保全しています。種まきや、草刈りによる生育地の管理を実施しています。種まきから花が咲くまで2～3年かかりました。

温暖地域における刈取り草原の代表種

チガヤ 千萱

イネ科

高さ：30～80cm 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



ギンイチモンジセセリ

🌟注目ポイント！

環境省、埼玉県の両方で準絶滅危惧種となっているギンイチモンジセセリの幼虫が葉を食べます。

アジアの熱帯地方など広く分布する、日本では比較的温暖な地方における刈取り草原の代表種です。

葉は刈り取りがない場合は高さが80cmになり、秋から冬にかけて紅葉して赤紫色を帯びようになります。葉を形成する芽は地表面直下にあり、地上部を刈り取られても速やかに葉を回復することができます。

5月に白銀色の花穂をつけ、風になびいて光り輝きます。初夏には花が終わり、種子についた毛が成長して綿毛となります。タンポポが咲くころ、葉鞘に包まれた花穂を取り出して食べると少し甘い味がします。

ボランティアの方のコメント

見沼地域を代表する在来種として、草刈りをしながらチガヤの草地を増やしています。

花は地味で、雄しべが目立つ

アキカラマツ

秋唐松

キンボウゲ科

高さ：60～70cm 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント! コムギの赤サビ病菌の中間宿主となります。

日本のほぼ全域に分布し、草原、道ばた、丘陵地などの水はけと日当たりの良い場所を好みます。カラマツの葉に似た花を、初夏から秋にかけてつけるので、この名がつけました。多年草で、開花後すぐに落ちて、糸状の雄しべが目立ちます。

長野県の一部地域では、腹痛などの民間薬として利用されてきました。

ボランティアの方のコメント

見沼地域では、ほとんど見られなくなった地域の在来種として守っています。日当たりが好きなので、周囲の草の刈り取りを行っています。

花がゆでだこのよう

タコノアシ

蛸の足

タコノアシ科
環境省 準絶滅危惧種
埼玉県 絶滅危惧Ⅱ類

高さ：30～80cm

花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



赤くなる前の花



めばえ

注目ポイント！

秋には全体が赤くなり、まるでゆでダコの足のように見えます。

泥湿地、沼、水田、河原などの水位の変動する場所に多く生育しています。茎の基部は地中にあり、地上部は直立します。葉は長さ6～11cmで若い時期は外来種のセイタカアワダチソウにも似ています。

花は直径5mmほどで、黄緑色、茎や花序は赤色を帯びる傾向があり、秋には赤色が一層強くなって目立ちます。花序に多数の花が並び蛸の吸盤のついた足に見えることからこの名がつけました。別名サワシオン（沢紫苑）とも言います。

ボランティアの方のコメント

眠っていた種が目覚めて生えてきました。種子から苗を育て池の周りに移植しています。また、生育環境を守るため、ヨシなどの草刈りを行っています。

多年生の早春植物

ノウルシ 野漆

トウダイグサ科
環境省 準絶滅危惧種
埼玉県 絶滅危惧Ⅱ類

高さ：40～60cm 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント! 6月には地上部は枯れてしまうので、見られるのは春の3～4か月です。

地下茎は肥厚し長く水平に伸び、二又分枝を繰り返し、その先端から毎年新芽を生じます。

直立茎で葉は互い違いに生え、狭い長楕円形～披針形で長さ5～6cm、幅6～7mm。縁に鋸葉はなく、裏面に短い軟毛を持ちます。黄色く、花のように見えるのは総苞と呼ばれる葉の変化したもので、その上に小さな花序を付けます。雄花はその中にある数本で中央から1本の雌花を出します。

茎を切ると出る白い乳液は、皮膚が弱い人にはにかぶれることがあることからこの名がつけられました。

ボランティアの方のコメント

生育地は湿地に限定され、乾燥するとなくなってしまいます。見沼産の株を守るために移植を行いました。

明るく湿った場所を好むため、冬の間に周囲の草刈りを行っています。

「夏」とあるが春に咲く

ナツトウダイ

夏燈台

トウダイグサ科

高さ：40～60cm

花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

名前にナツとついていますが、実際に花が咲くのは春です。

林のヘリや草原に生育する多年草です。

茎の先から傘状に伸びた枝の先端に三角形の苞葉の真ん中に三日月形が複数集まった腺体と、おしべ、めしべのある花を付けます。

ノウルシなどと同じく、茎を傷つけると白い乳液が出ます。この乳液は、有毒で皮膚の弱い人ではかぶれたり、食べると下痢や嘔吐することがあります。一方でその成分を含む根を利尿やむくみの薬として利用することもあります。

ボランティアの方のコメント

見沼地域では、ほとんど見られなくなった地域の在来種として保全しています。生育のための環境を維持するため、周囲の草の刈り取りを行っています。

若葉が赤くなる

アカメガシワ 赤芽柏

トウダイグサ科

高さ：2～5m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



若葉



蜜の出る腺にきたアリ

注目ポイント！

ミドリシジミの成虫が蜜を吸います。

葉の基部には蜜がでる腺が一对あり、アリなどがやってきます。

荒地や道端などの明るい場所に生育する落葉広葉樹で、伐採跡地などの明るい場所ができるといち早く生えてきます。おしべのみが咲く雄株とめしべのみが咲く雌株が別々の株となっています。若葉は赤い毛が密生するため赤くなりますが、葉が大きくなると毛は落ちて緑の葉になります。

昔から染料や胃潰瘍の薬などに用いられています。また、かつては葉に食物を載せていたことから別名ゴサイバ（五菜葉）とも呼ばれています。

ボランティアの方のコメント

ミドリシジミの吸蜜源とするために、ピオトープ内に自然に発芽した苗木を、ハンノキの近くに移植しています。

キタキチョウが集う

メドハギ

薯蕷・目途萩

マメ科

高さ：60cm～1m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



キタキチョウ



キタキチョウの卵

👉注目ポイント！

キタキチョウの幼虫が葉を食べます。

日当たりの良い草地や道ばたに生える多年草です。茎の高さは0.6～1mになり、やや木質化し伏毛があります。葉は3小葉からなり茎に密生しています。小葉は長さ1～2.5cm、幅は2～4mmのくさび型～倒披針形で裏面には伏毛があります。

花は葉腋に数個ずつつき、黄白色で長さ6～7mm。閉鎖花も葉腋に数個ずつつきます。豆果は、扁平な円形または広楕円形です。茎を占いの筥(めどぎ)に用いたことによります。筥とは、占いに用いる細い棒で、メドハギの茎50本を一組として用います。後世には多く竹で作り筥竹(ぜんちく)と言います。

ボランティアの方のコメント

幼虫がメドハギの葉を食べるキタキチョウが生息できるように育てています。定期的にメドハギの周りの草刈りを行っています。

サクラだけどサクラに見えない

ウワミズサクラ 上溝桜

バラ科

高さ：15～20m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

樹皮を傷つけるとクマリン（桜餅の香り）の強い香りがします。

日当たりの良い谷間や沢の斜面に多い、落葉広葉樹です。花は、8～15cmの総状花序に白い花が多数密集して咲き、一見すると桜の仲間には見えません。果実は、最初赤から黒色へ熟し、果実酒にもされます。また、ウワミズサクラの若い花穂を塩漬けにしたものはアンニンゴ（杏仁子）と呼ばれ、新潟県では酒のつまみや料理のアクセントに使われています。

名の由来は、この木に溝を彫って占いに用いたことによります。

ボランティアの方のコメント

生育数が少なくなっている大宮台地産の苗木を、植樹しました。苗の周囲の草刈を定期的に行ったり肥料を撒いて成長を促したりしています。

花がかがり火のよう

ワレモコウ

吾亦紅

バラ科

高さ：50cm～1m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

赤紫色の花びらのように見えるのはガク片です。



日当たりの良い草原に生える多年草です。

平安時代の書物に「割れ帽額（もこう）」という記述があり、花の形が御簾（みす）や御帳を飾る装飾品である帽額に使われる紋様に似ているためという説があります。

葉は、ギザギザのある楕円形の小さい葉が5～13枚まとまって、一つの葉を形づくっています。花は、1～2cmの円筒状の穂に花びらのない花が集まっていて、上から順に咲いていきます。

ボランティアの方のコメント

ワレモコウは、現在では河川の堤防などわずかな場所しか残っていません。地域の在来種を守るために見沼たんぼ首都高ビオトープで守っています。明るい場所をつくるため、ワレモコウの周囲を定期的に草刈りしています。

関東地方の代表的な樹木

シラカシ 白樫

ブナ科

高さ：15～20m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！ シラカシのドングリはアクリン酸が強く、一般には食べられません。

高さ 20m 程度に成長する常緑高木です。

関東平野の大部分では、人による影響がなかった場合には最終的にシラカシ林となることが知られています。

葉は細長く上半分に浅い鋸歯があります。裏がやや白みを帯びています。花は 4～5 月ごろ、栗に似た花びらのない目立たない花が咲きます。10 月ごろには長さ約 1.5cm の楕円形のドングリが熟します。

ボランティアの方のコメント

見沼地域の斜面林を代表する樹種として、植栽しています。密になった樹林の整備として、間伐作業などを行っています。

埼玉県蝶ミドリシジミの育つ木

ハンノキ

榛の木

カバノキ科

高さ：5～15m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



雄花



ミドリシジミ

注目ポイント！ 埼玉県の蝶「ミドリシジミ」の幼虫は、ハンノキの葉しか食べません。ハンノキの減少にともなって埼玉県内でも数が減っていて、埼玉県の準絶滅危惧種となっています。

湿地に生育する落葉高木樹で、ハンノキ林はもともと沼地だった見沼地域に本来できる樹林です。

寒さの厳しい2月ごろに花びらのない細長い雄花と、球状の雌花の地味な花が咲きます。花が地味なことから、小林一茶の「ハンノキの それでも花の つもりかな」という俳句があります。

ボランティアの方のコメント

ミドリシジミの生息するハンノキ林を再生するため、近隣の小中学校と協力して、種から苗を育てハンノキの植樹を行いました。さらに苗木の移植を行い、ハンノキ林を拡大し、ミドリシジミの生息環境を拡大しています。

アンコ樫は恋の花

ヤブツバキ 藪樫

ツバキ科

高さ：5～15m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



花



実

注目ポイント！ 種子から採取できる樫油は古くから食用油や化粧品として、利用されてきました。厳寒の季節に咲く赤い花は目を引きます。

東北以西の暖地に生育する常緑の小高木で、照葉樹林の代表的な種です。

葉は厚く光沢があり、縁に小さな鋸歯があります。赤色の花（筒状の5弁花）をつけます。

果実は厚い皮に覆われ固いです。種子も固い種皮で覆われているのは、乾燥に耐える工夫と考えられています。

ボランティアの方のコメント

見沼地域の斜面林の構成種として植栽しています。密になった樹林の整備として、間伐作業などを行っています。

実がネズミの糞に似ている

ネズミモチ 鼠糞

モクセイ科

高さ：2～5m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

似た植物に中国が原産地のトウネズミモチがあり、各地で植栽されたものが野生化して広がっており、環境省の生態系被害防止外来種リストで、重点対策外来種に指定されています。

常緑低木で高さは5m程度になります。6月ごろ、枝の先端に白い花を多数つけます。

10月ごろには、黒い小さな実を沢山つけ、これがネズミのふんのように見えるところから、ネズミモチの名がついたとされています。葉は楕円形で厚みがあり、葉脈がほとんど見えません。

ボランティアの方のコメント

在来で樹高が高くない常緑樹として、ピオトープ内に植栽しています。植栽している林縁部の草刈りや間伐などにより、樹木の生育環境の整備を行っています。

湿地の人為的な攪乱で蘇った

カワヂシャ 川萵苣

ゴマノハグサ科
環境省 準絶滅危惧種
埼玉県 絶滅危惧Ⅱ類

高さ：30～80cm 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



花

👉注目ポイント！

よく似た外来種にオオカワヂシャがあります。この種との交雑を防ぐ必要があります。

河川の氾濫で植物が流された直後の裸地（草木が1本も生えておらず土がむき出しになっている土地）上の湿地に生育します。

高さは生育環境によってさまざまで、富栄養な水路などでは1mに達する大きな株になりますが、貧栄養のため池では5cmほどになります。

水田では、ちょうど5月の中旬ごろ、田植え前に姿を見せ白色から淡紫色の花を咲かせますが、その後はパツタリと見かけなくなります。

ボランティアの方のコメント

見沼地域では、少なくなっています。ピオトープでは、生育のために必要な洪水などによる地表の攪乱が起こらないので、冬に代掻きを行い、生育地を守っています。

湿った場所や畔などの溝に生える

ミゾコウジュ

溝香需

シソ科
環境省 準絶滅危惧種
埼玉県 準絶滅危惧種

高さ：30～80cm 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



花



冬に見られるロゼット

注目ポイント! 別名ユキミソウ（雪見草）とも言い、乾燥させて薬用として利用することもあります。

湿った草地や畔に生え、冬には大型のロゼット状の葉（地面に平らな状態の葉）で過ごします。根出葉は長い柄があり花の時期には枯れています。春になると4角形の茎が直立します。

春に淡紫色の花が咲き、ガクは長さ2.5～3mm、唇形で花が終わると左右に口を閉じ、果時は4mmになってまた開きます。

ボランティアの方のコメント

圃場整備や湿地の減少、洪水などによる攪乱により少なくなっているため守っています。草刈りなどの環境管理のほか、種から育てたロゼット葉の移植を行っています。

トゲトゲ桃ちゃん

ノハラアザミ

野原薊

キク科

高さ：60cm～1m 花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！ 同じアザミの仲間に似た名前のノアザミがありますが、ノハラアザミは総苞に粘り気がないのに対し、ノアザミの総苞には粘り気があります。

草地や林縁などに生える秋のアザミ類を代表する種類です。

花は、枝の頂に上向きに直立して頭花がつく頭上花序で、筒状花ばかりで構成され、全体の直径は5cmほどです。葉の形は、羽状に中裂し、縁にトゲがあり、形はさまざまです。茎につく葉は互生し、基部は茎を抱いています。花の下にある総苞にはクモ毛があります。

ボランティアの方のコメント

日本では広く分布していますが、見沼たんぼ周辺では最近は見かけなくなったため、保全しています。日当たりのよい草地を好むため、定期的に草刈りを行っています。

関東以北で見られる野菊

カントウヨメナ

関東嫁菜

キク科

高さ：40cm～80cm

花の時期・実の時期 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2



注目ポイント！

和名は、関東地方に分布するヨメナという意味ですが、近畿以西に見られるヨメナに比べて食べても美味しくないという特徴があります。

やや湿った草地や道ばたなどに生育する多年草です。主として関東地方以北に分布しています。

茎の上部で枝分かれをし、先端に直径3～4cmの頭花を1輪ずつ咲かせます。花は白色から淡青色のものが見られます。花の中央に黄色の筒状花が集まり半球状となります。葉は長さ8～10cm、幅3cmほどの卵状楕円形で、質は薄く、縁には粗い鋸歯があります。横に伸びた地下茎でも株が増えます。

ボランティアの方のコメント

ピオトープ内では、毎年開花前に草刈りが実施される場所に生育していたため、在来種の保全のために移植を行いました。池の縁に群生させるべく、10株ほどを2019年秋に移植し、草刈りによる管理を行っています。

見沼たんぼ首都高ビオトープ 緑のボランティア活動

見沼たんぼ首都高ビオトープ 緑のボランティアとは

見沼たんぼ首都高ビオトープでは、見沼たんぼ地域に昔からすむ生きものを守り、育てるために、地域の皆さんと一緒に生きものがくらしやすい環境整備を実施しています。

見沼たんぼ地域に昔からすむ生きものを守り、育てる活動にあなたも参加しませんか？

活動概要

< 活動内容 >

- ・見沼たんぼ地域にもともと生育している在来の野草や樹木の種まきや植え付け
- ・草地の草刈りや樹林の間伐によるビオトープの維持管理
- ・トンボやチョウ、カエルのすみかづくりなどの環境づくり
- ・幼稚園から大学生までの観察会、実習等の環境教育活動のお手伝い…など

< 活動時期 >

環境づくり活動：年間6回程度 ※可能な回のみ参加可



ボランティアに興味のある方はこちら

ボランティア事務局 E-MAIL : mxminuma@ecosys.or.jp